

学 校 を
支 え る
地 域 の

力 chikara

「教育コーディネーター」を中心にした 「学校の応援団」づくり 新潟県見附市教育委員会

新潟県見附市では地域と共に創る教育「共創教育」を推進しています。ここでは、その取組の一環である、地域と学校が一体となって子どもを育てる

体制づくり＝「学校応援団」づくりに
ついて紹介します。

取組の背景 三つの「も」

もはや学校だけの努力では、さまざまな課題解決を図ることは難しい。もつたない。学校は、もつと身近にある『地域のひと、地域のもの、地域の声』を生かしたかどうか。もつと先生が子どもにかかわる時間を多くし、きめ細かな指導をしてほしい。

このような声を受け、「学校の応援団」づくりに取り組みました。まず取り組んだことは、地域と学校とを結び役割を担う「教育コーディネーター」を、市内の全小・中・特別支援学校一三校に配置したことです。

「教育コーディネーター」の 役割

教育コーディネーターの役割は次の

二点です。

- ①自分の個性や特技を生かし、学校と地域の間の「壁」を低くするさまざまな取組を企画し、学校支援ボランティアによる組織的な動きをつくり出すなど、「学校の目を地域に」「地域の目を学校に」の実現を図ること。
- ②学校の要望を踏まえて、地域の中にあるさまざまな「教育資源（ひと、もの、地域の声）」の情報を届けたり、教育活動を実施するに当たったの事前の交渉や打合せをしたりするなど、「教育資源」の有効活用を推進すること。

具体的な取組例

- 「学校の目を地域に」
- 「地域の目を学校に」

事例 1 学校図書室の地域開放の取組

市立図書館から離れている見附第二小学校区には、学校図書室を利用させてほしいという地域の声がありました



学校図書室の地域開放の取組
(見附第二小学校)



地域の伝統文化「稚児舞」
発掘の取組（田井小学校）

た。「教育コーディネーター」の本間さん、品田さんがこの声を学校に届け、学校も地域と一体になって子どもを育てたいと願っていましたので、すぐに実現に向けた具体的な検討が進みました。本間さん、品田さんが協力者を募り、図書室運営の活動が始まりました。地域住民の図書室の利用が進むにつれて、児童も図書室に行くようになり、貸出冊数が、前年度に比べて一・四倍に増加しました。

また、このことがきっかけになり、花壇やプランターの世話をする『おHANAKURAぶ』が組織され、学校内の環境整備への支援が進むなど、学校応援の輪が次々と広がっています。

事例2 地域の伝統文化「稚児舞」
発掘の取組

田井小学校区には、地域の伝統文化である「稚児舞」を復活させたいと強く願っている地域の人がいました。

「教育コーディネーター」の八木さんは、学校が日本の良さや文化を大切にしたいと願っていることを知っていましたので、すぐに実現に向けた具体的な検討が進みました。八木さんの方に「稚児舞」の指導者の人選、衣装や小道具の手配、そして発表会の企画など積極的に取り組んでいただきました。地域に伝わる伝統文化の発掘、そして継承という取組の第一歩がスタートしました。

事例3 高校生や教員OBによる
「見附塾」の取組

見附中学校では、これまで放課後や長期休業を活用した補充指導を実施してきました。できる限り一人ひとりにわかる・できる喜びを感じてほしいと進めてきましたが、諸会議や部活動指導等もある中、さまざまな課題がありました。そこで「教育コーディネーター」の小林さん、吉田さんと協議し、地域在住の教員OBに加え、一つの試みとして高校生にも声をかけ、学習相談や補充指導を行う「見附塾」を誕生させました。特に年齢の比較的近い高校生からの指導は、「よくわかった」「勉強方法を学ぶことができてよかった」とたいへん好評でした。今後、この取組をさらに拡大していく予定のことです。



高校生や教員OBによる「見附塾」の取組（見附中学校）

**「学校の応援団」づくりの
確かな手ごたえ**

「教育コーディネーター」を中心にした取組により、昨年度一年間に、「学校の応援団」として来校した地域の人は二三四三人、前年に比べて七五三人増え、地域とともに創る教育（共創教育）が確実に進みました。

「地域の力を生かすことは、学校教育の質を高める上で有効」「地域は学

校の応援団であること
を「実感」という声が教職員から届いています。また、「何か学校の手助けをしたいという思いが実現できた」「学校の壁がとて低くなった」「子どもたちに地域の良さを感じてもらうことができました」という声が地域から届いています。

本取組を推進することが、学校にとって
は、教職員の負担軽減
とさめ細やかな指導の
充実に、また、地域に
とっては、生きがいや
誇りを感じながら、見
附の子どもは見附で育
てることの実現につながっています。

現在、市内の全学校で、本取組をベースにして、教育コーディネーターを中心にした「学校支援地域本部」を確実に機能させ、「学校の応援団」づくりをより組織的・継続的に充実させる取組を推進しています。詳細は見附市教育委員会HPをご覧ください。

（学校教育課課長補佐 渡邊茂夫）
見附市教育委員会HP：
<http://www.mitsuke-ni.ed.jp/>